

Report- II

オートクチュールドレスの構造と 特殊素材の縫製技法の研究 - II

2021 年度桑沢デザイン研究所
教育研究助成金研究成果報告書
辺見小百合

Taffeta Evening dress



Idea sketch 1

Tulle Evening dress



Idea sketch 2

2021年度研究助成金によるドレスの制作をした。

研究タイトルは「オートクチュールドレスの構造と、特殊素材の縫製技法の研究-II」とした。

2020年度に引き続き特殊素材でオートクチュールのカクテルドレスを仕立て、市販のプレタポルテとの縫製技法と仕様の違いや、特殊素材の扱いなども研究する。

また、その技法を授業で紹介することを目的に、3年計画で3着のドレス(特殊素材別)を制作する。

今回はリバーレース・サテックレープ・チュールという生地を3種類使用した。またレースの身頃部分にオートクチュール刺繍を用いている。

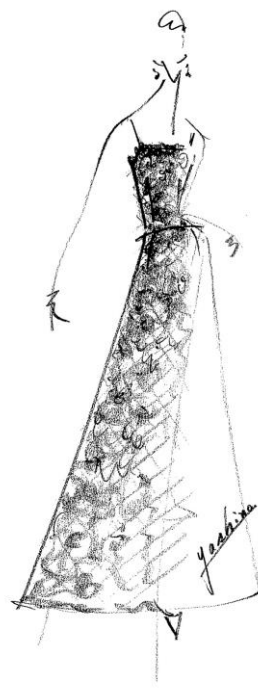
Silk Taffeta Evening dress



シルクタフトイブニングドレス

Idea sketch 3

Lace Evening dress



レースイブニングドレス

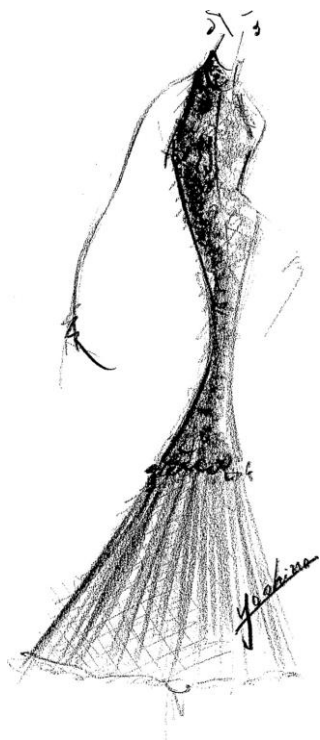
Idea sketch 4

研究背景は前回に引き続き以下の通りである。研究所では長年オートクチュールの技法を使い制作する授業(植田いつ子先生)があったが、総合デザイン科となり現在はその技法を学生達に伝える機会も少なくなった。この研究を通して得た知識を多くの学生に伝えたいとの目的がある。

今回のドレスはオートクチュールの特殊技法で制作するにあたり、サロンドヨシノの吉野雅彦先生に制作を依頼した。2着目のイブニングドレスの刺繍も刺繍アトリエ Lemmikko に依頼した。

吉野雅彦先生は植田いつ子先生のアトリエで長年、上皇后陛下の衣装を仕立てたという大きな実績があり、その卓越した特殊技法を今回のドレスの制作過程で多く反映されている。2着とも予算の問題で吉野先生にはカクテルドレスを依頼したが先生の御好意で2着目もイブニングドレスが仕上がった。

Lace & Tulle Evening dress



Idea sketch 5

Lace & Tulle Evening dress



Idea sketch 6

ドレスにはシーンによりいろいろなドレスの種類があり、イブニングとカクテルドレスの違いを簡潔に記載しておく。

ドレスコードは、格式が高い順に「正礼装」、「準礼装」、「略礼装」と3つに分けられている。イブニングドレスは正礼装に分類され、洋装のなかではもっとも格式が高い女性の服装となる。また、イブニングドレスは夜会服ともよばれ、17～18時頃にはカクテルドレスを、そして、それ以降の時間帯に着るのがイブニングドレスである。

カクテルドレスはイブニングドレスを簡略化したもので、ドレスコードでは準礼装にあたる。カクテルドレスとイブニングドレスは、着る時間帯以外に、デザインも少々異なっていて、最もわかりやすい違いは、裾の長さである。イブニングドレスがフルレングスだったのに比べ、カクテルドレスはノーマルからミディ丈が一般的である。

「Ruby red Queen」



今回も、ドレスのイメージに合わせてネーミングすることにした。

依頼した刺繍アトリエ Lemmikko（レンミッコ）にはエレガントをテーマに刺繍をお願いしたので、赤・エレガントから「Ruby red Queen」と命名した。

上に着用しているレースのドレスの生地はフランスの Sophie Hallette 社のリバーレース編機でつくられているのでリバーレース生地と呼ばれる。リバーレース編機は現在製造されていない。オートクチュールメーカーのみ使用されていて大変貴重な生地である。極細の糸で作り上げられる繊細な柄が特徴で、ドレスの装飾などに用いられる。糸レースともいう。

アンダードレスはサテックレープ(satin crepe)という生地で、朱子縮緬のことである。経糸に無撚糸、緯糸に右撚りと左撚りの糸を用い朱子織にし、しば出し精錬して仕上げた織物である。上質な光沢感とソフトなしぼが特徴。片面は光沢、他面は縮緬に見える。

スカートの裾の生地はチュールという生地である。チュールとは、多角形の網目をもつレース地の一種の事を言う。特にウェディングのベールやドレスなどに使われる「亀甲目（きっこうめ）」と言われる六角形の網目で構成されているネットが一般的であり、横に引っ張ると矩形になる。

Idea sketch 6～Temporary sewing



1. ドレス生地
リバーレース



2. アンダードレス生地
サテックレープ



3. スカートの裾生地
チュール

Embroidery sewing process

刺繡縫製工程



1. 材料・道具



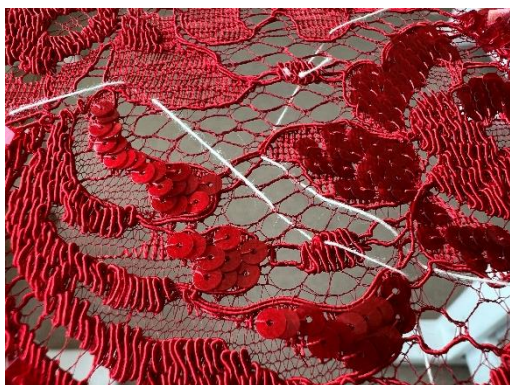
2. リュネビル刺繍の準備



3. スパンコール刺繍



4. スパンコール刺繍



5. スパンコール刺繍表面



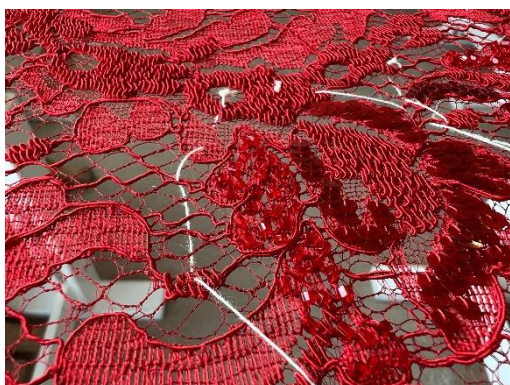
6. ビーズ刺繍



7. ビーズの裏面



8. 曲線で刺繍した裏面



9. 刺繍の表面



10. スクエアспанコールを刺繍



11. 表面 ビーズに隙間をあける



12. メランジェ技法で立体感を出す



13. マントウーズ刺繍



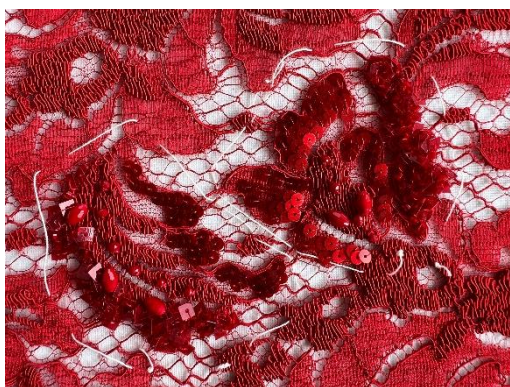
14.



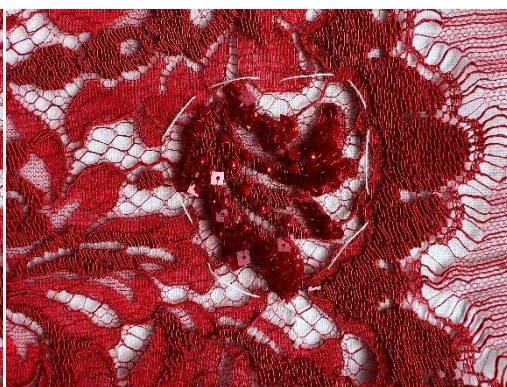
15.



16.



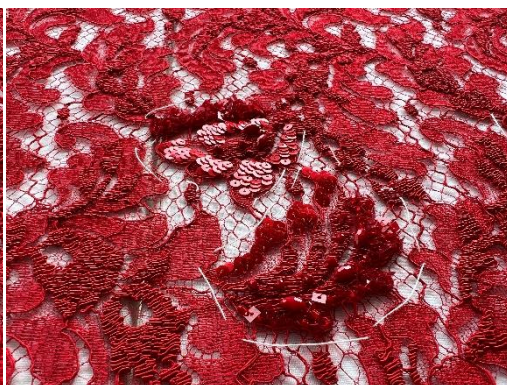
17.



18.



19.



20. 刺繍完成

刺繍の名称：オートクチュール刺繍

刺繍のテクニック（技法）：（１）リュネビル刺繍 （２）マントゥーズ刺繍

オートクチュール刺繍とは世界各地のさまざまな刺繍技法と素材でオーダーメイドのドレスやバッグを装飾する技法のことである。

リュネビル刺繍とは、フランス発祥の特殊なカギ状の針を使った刺繍で、ビーズやスパンコールなどを使った豪華な刺繍を効率的に素早くできる。

マントゥーズ技法とは 通常の針で刺繍する技法で紀元前から存在したとされている。糸、ビーズ、ビジューストーン、リボンや布など多彩な素材を思い描いたままに刺繍でき、さまざまな技法が編み出されてきた。

刺繍アトリエ Lemmikko

Shiro SHIBATA 柴田士郎 Akiko OGAWA 小川明子

Dress sewing process

ドレス縫製工程



・アンダードレス制作



・アンダードレスの裾にギャザーを入れて
チュールを縫いとめる
円断ちのパターンで5枚使用



・円断ちのパターン6枚を縫いとめる



・円断ちのパターン7枚を縫いとめる



・レースドレスの上身頃の制作



・アンダードレスにレースドレスを着せ
バランスの確認する



・刺繍した生地の完成



・刺繍した生地を土台のドレスに縫いとめる



・完成写真 前面



・完成写真 後面

ドレス制作依頼先 株式会社 サロンド ヨシノ

吉野雅彦先生のプロフィール

1977 年 桑沢デザイン研究所ファッションデザイン科卒業

植田いつ子アトリエ入社

顧客の他、皇室の方々のお洋服制作に携わる

1990 年 植田いつ子プレタポルテのデザイナーとして既製服制作に携わる

2012 年 オートクチュールアトリエのサロン ド ヨシノ設立 現在に至る。



正面写真



右側写真



左側写真



後側写真

研究テーマ：オートクチュールドレスの構造と
特殊素材の縫製技法の研究-II

作品 イブニングドレス

生地 1, リバーレース

組成繊維 レーヨン 62%・コットン 23%・ナイロン 15%

生地 2, サテンクレープ

組成繊維 ポリエステル 100%

生地 3, チュール

組成繊維 ナイロン 100%

サイズ 7号サイズ

発注先 株式会社 サロンド ヨシノ

刺繍アトリエ Lemmikko